

安全データシート



according to JIS Z 7523:2012

Rust Protection 2000 PLUS charcoal-grey

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Rust Protection 2000 PLUS charcoal-grey
製品コード : 110120

供給者の会社名称 : WEICON GmbH & Co. KG
Königsberger Str. 255
48157 Münster
Germany
Phone: +49 251 93220
Fax: +49(0)251 / 9322 - 244
Internet: www.weicon.de

本SDS担当者の電子メールアドレス : msds@weicon.de

緊急電話番号 : TRANSPORT / EMERGENCY CONTACT (24h): Tel: +44 1865 407333 (English)
Osaka Poison Information Center: 072-727-2499 (24 hours)

推奨用途及び使用上制限

エアゾール製品

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : エアゾール - 区分1
特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分2
水生環境有害性 短期(急性) - 区分3
水生環境有害性 長期(慢性) - 区分3

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : H222, H229 - 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。高压容器: 熱すると破裂のおそれ。
H373 - 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。(中枢神経系 (CNS))
H412 - 長期継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き

概要

安全対策

:
: P210 - 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
P211 - 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
P273 - 環境への放出を避けること。
P260 - 粉塵またはミストを吸入しないこと。
P251 - 使用後を含め, 穴を開けたり 燃やしたりしないこと。

応急措置

保管

廃棄

: P314 - 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
: P410 + P412 - 日光から遮断すること。50°C以上の温度にばく露しないこと。
: P501 - 該当する法律に従って廃棄物を処分してください。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	%	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
butane	≥10 - ≤25	106-97-8	2-4	(2)-4
ethylbenzene	5.5	100-41-4	3-28; 3-60	(3)-28; (3)-60
n-butyl acetate	≤6.6	123-86-4	2-731	2-(6)-226
キシレン	5.5	1330-20-7	3-3; 3-60	(3)-3; (3)-60
Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized heavy	≤5.6	64742-82-1	C004-896-49A	データなし
Solvent naphtha (petroleum), light arom.	≤5.6	64742-95-6	C005-106-94A	データなし
zinc oxide	≤0.59	1314-13-2	1-561	(1)-561
fatty acids, tall-oil, reaction products with diethylenetriamine, compds. with polyethylene glycol hydrogen maleate C9-11-alkyl ethers	≤0.59	1262797-52-3	データなし	データなし
Fatty acids, tall-oil, reaction products with diethylenetriamine	≤0.18	61790-69-0	C005-918-26A	データなし

4. 応急措置

- 吸入した場合** : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。暴露後または気分が悪いときは医師の手当てを受けること。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
- 皮膚に付着した場合** : 多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服および靴を脱がせる。少なくとも10分間洗い流し続ける。暴露後または気分が悪いときは医師の手当てを受けること。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
- 眼に入った場合** : すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。暴露後または気分が悪いときは医師の手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合** : 水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。暴露後または気分が悪いときは医師の手当てを受けること。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

最も重要な徴候及び症状

過剰にばく露した場合の徴候症状

- 吸入した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
気道の刺激
咳
- 眼に入った場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
刺激
充血

- 応急処置をする者の保護** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。
- 医師に対する特別な注意事項** : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

5. 火災時の措置

- 消火剤** : 火災に応じた消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤** : 認知済みのものは無し。
- 特有の危険有害性** : 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。流出物が下水道に流れ込むと、火災や爆発を引き起こす危険性がある。火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり、容器が破裂し、その結果爆発が起こるリスクがある。ガスが下部または囲まれた場所に蓄積するか、あるいは相当な距離を移動して発火点まで移動してフラッシュバックを引き起こし、火災を引き起こすことがある。エアゾール容器が破裂すると、火の中から高速で飛び出してくることがある。本製品は水生生物に対して有害であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。
- 特有の消火方法** : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。ウォーターズプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置** : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

- 非緊急時対応要員について** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。エアゾールが破裂した場合、加圧された内容物および噴射剤が急速に放出されるので注意しなければならない。容器が大量に破裂した場合は、物質の大量流出と同様に除去セクションの指示に従って処理する。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。蒸気や噴霧の吸入を避ける。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。
- 緊急時対応要員について** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報に注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

環境に対する注意事項

- : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 少量に流出した場合** : 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。火花を発生しない工具及び防爆型の装置を使用する。水溶性なら水で希釈してぬぐい取る。あるいは、または水に不溶性の場合、乾燥した不活性吸収剤に吸着させ、適切な廃棄物処理容器に入れる。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 安全取扱注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。圧縮容器: 直射日光を避け、50°C以下に保つ。使用後でも穿孔したり焼却してはならない。蒸気やミストを呼吸しない。摂取してはならない。眼、皮膚および衣類に接触しないようにする。ガスの吸入を避ける。環境への放出を避けること。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。熱、火花、炎、その他の発火源から離れた場所で保管ならびに使用する。防爆型の電気装置(換気設備、照明用具、物質取扱い用具)を使用する。火花を発生させない工具を使用すること。容器が空でも製品の残留物が残存していて有害危険性がある。
- 衛生対策** : 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

保管

- 安全な保管条件** : 現地の法規制に従って保管する。換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保存する。あらゆる発火源を除去する。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用前にセクション10を参照のこと。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 換気が十分な場所でのみ使用する。ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。

暴露限界

化学名又は一般名	暴露限界値
butane	日本産業衛生学会 (日本, 5/2019)。 OEL-M: 500 ppm 8 時間。 OEL-M: 1200 mg/m ³ 8 時間。
ethylbenzene	日本産業衛生学会 (日本, 5/2020)。 OEL-M: 50 ppm 8 時間。 OEL-M: 217 mg/m ³ 8 時間。 安衛法 (日本, 6/2020)。 管理濃度: 20 ppm 8 時間。
n-butyl acetate	日本産業衛生学会 (日本, 5/2020)。 OEL-M: 100 ppm 8 時間。 OEL-M: 475 mg/m ³ 8 時間。 安衛法 (日本, 6/2020)。 管理濃度: 150 ppm 8 時間。
キシレン	安衛法 (日本, 6/2020)。 管理濃度: 50 ppm 8 時間。 日本産業衛生学会 (日本, 5/2020)。 OEL-M: 50 ppm 8 時間。 OEL-M: 217 mg/m ³ 8 時間。
zinc oxide	日本産業衛生学会 (日本, 5/2019)。 OEL-M: 1 mg/m ³ 8 時間。形状: 吸入性粉塵 OEL-M: 4 mg/m ³ 8 時間。形状: 総粉塵

保護具

呼吸用保護具

: 危険性と暴露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。推奨 : 有機ベーパー (タイプ AX) および粉塵フィルタ

手の保護具

: リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。推奨 : 1 ~ 4 時間 (破過時間): ニトリルゴム 4 ~ 8 時間 (破過時間): Viton®/フチルゴム

眼の保護具

: リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない: 側方シールド付の保護眼鏡。

皮膚及び身体の保護具

: 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。静電気から引火する可能性がある場合には、帯電防止防護服を着用しなければならない。静電放電から最大限に保護するためには、保護具に帯電防止オーバオール、長靴および手袋が含まれていなければならない。

この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	: エアロゾル。
色	: 灰色。
臭い	: ベンゼン様。
pH	: 該当しない
融点・凝固点	: データなし
軟化点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: 密閉式: 該当しない

9. 物理的及び化学的性質

爆発性／可燃性の下限と上限 : データなし

蒸気圧 :

化学名又は一般名	20°Cの蒸気圧			50°Cの蒸気圧		
	mm Hg	kPa	方法	mm Hg	kPa	方法
プロパン	6300.51	840	DIN EN 13016-2			
n-ブタン	1602.88	213.7				
酢酸ブチル	11.25	1.5				
エチルベンゼン	9.3	1.2				
キシレン	6.7	0.89				

相対的蒸気密度 : データなし

相対密度 : データなし

溶解度 : 以下の物質に不溶性: 冷水 および 温水。

水混和性 : 該当せず。

n-オクタノール／水分配係数 : 該当しない

自然発火温度 : 該当しない

分解温度 : データなし

粘度 : データなし

粒子特性

中央粒径値 : 該当しない

その他のデータ

エアゾール製品

エアゾールの種類 : スプレー

燃焼熱 : 19.45 kJ/g

10. 安定性及び反応性

反応性 : この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。

化学的安定性 : 製品は安定である。

危険有害反応可能性 : 通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。

避けるべき条件 : いかなる発火源（火花あるいは炎）にも近づけてはならない。

混触危険物質 : 特にデータは無い。

危険有害な分解生成物 : 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
butane	LC50 吸入した場合 蒸気	ラット	658000 mg/m ³	4 時間
ethylbenzene	LD50 経皮	ウサギ	>5000 mg/kg	-
	LD50 経口	ラット	3500 mg/kg	-
n-butyl acetate	LD50 経皮	ウサギ	>17600 mg/kg	-
	LD50 経口	ラット	10768 mg/kg	-
キシレン	LD50 経口	ラット	4300 mg/kg	-

11. 有害性情報

Solvent naphtha (petroleum), light arom.	LD50 経口	ラット	8400 mg/kg	-
--	---------	-----	------------	---

急性毒性の推定

製品 / 成分の名称	経口 (mg/kg)	経皮 (mg/kg)	吸入 (ガス) (ppm)	吸入 (蒸気) (mg/l)	吸入 (ダストおよびミスト) (mg/l)
Rust Protection 2000 PLUS charcoal-grey	78181.8	20000	N/A	100	N/A
butane	N/A	N/A	N/A	658	N/A
ethylbenzene	3500	N/A	N/A	11	N/A
n-butyl acetate	10768	N/A	N/A	N/A	N/A
キシレン	4300	1100	N/A	11	N/A
Solvent naphtha (petroleum), light arom.	8400	N/A	N/A	N/A	N/A
Fatty acids, tall-oil, reaction products with diethylenetriamine	500	N/A	N/A	N/A	N/A

経路	急性毒性推定値 (ATE値)
経口	78181.82 mg/kg
経皮	20000 mg/kg
吸入 (蒸気)	100 mg/l

刺激性/腐食性

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	暴露時間	観察
ethylbenzene	眼 - 強度の刺激 皮膚 - 軽度の刺激	ウサギ ウサギ	- -	500 mg 24 時間 15 mg	- -
n-butyl acetate	眼 - 中程度の刺激 皮膚 - 中程度の刺激	ウサギ ウサギ	- -	100 mg 24 時間 500 mg	- -
キシレン	眼 - 軽度の刺激 眼 - 強度の刺激 皮膚 - 軽度の刺激 皮膚 - 中程度の刺激	ウサギ ウサギ ラット ウサギ	- - - -	87 mg 24 時間 5 mg 8 時間 60 uL 24 時間 500 mg	- - - -
Solvent naphtha (petroleum), light arom. zinc oxide	皮膚 - 中程度の刺激 眼 - 軽度の刺激 眼 - 軽度の刺激 皮膚 - 軽度の刺激	ウサギ ウサギ ウサギ ウサギ	- - - -	100 % 24 時間 100 uL 24 時間 500 mg 24 時間 500 mg	- - - -

呼吸器感作/皮膚感作

データなし

生殖細胞変異原性 (変異原性)

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器毒性、単回ばく露

11. 有害性情報

名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
n-butyl acetate	区分3	-	麻酔作用
キシレン	区分3	-	気道刺激性
Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized heavy	区分3	-	麻酔作用
Solvent naphtha (petroleum), light arom.	区分3	-	気道刺激性
	区分3	-	麻酔作用

特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
ethylbenzene	区分2	-	聴覚器官
Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized heavy	区分1	-	中枢神経系 (CNS)
Fatty acids, tall-oil, reaction products with diethylenetriamine	区分2	-	-

吸引性呼吸器有害性

名称	結果
ethylbenzene	吸引性呼吸器有害性 - 区分1
キシレン	吸引性呼吸器有害性 - 区分1
Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized heavy	吸引性呼吸器有害性 - 区分1
Solvent naphtha (petroleum), light arom.	吸引性呼吸器有害性 - 区分1

12. 環境影響情報

生態毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
ethylbenzene	急性 EC50 4600 µg/l 真水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata	72 時間
	急性 EC50 3600 µg/l 真水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata	96 時間
	急性 EC50 6.53 mg/l 海水	甲殻類 - Artemia sp. - ノープリウス	48 時間
	急性 EC50 2.93 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間
	急性 LC50 4200 µg/l 真水	魚類 - Oncorhynchus mykiss	96 時間
n-butyl acetate	急性 LC50 32 mg/l 海水	甲殻類 - Artemia salina	48 時間
	急性 LC50 18000 µg/l 真水	魚類 - Pimephales promelas	96 時間
キシレン	急性 EC50 90 mg/l 真水	甲殻類 - Cypris subglobosa	48 時間
	急性 LC50 13400 µg/l 真水	魚類 - Pimephales promelas	96 時間
zinc oxide	急性 IC50 1.85 mg/l 海水	藻類 - Skeletonema costatum	96 時間
	急性 IC50 46 µg/l 真水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata - 指数増殖期	72 時間
	急性 LC50 98 µg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間
	急性 LC50 1.1 ppm 真水	魚類 - Oncorhynchus mykiss	96 時間

残留性・分解性

データなし

生体蓄積性

12. 環境影響情報

製品 / 成分の名称	LogP _{ow}	BCF	可能性
butane	2.89	-	低
ethylbenzene	3.6	-	低
n-butyl acetate	2.3	-	低
キシレン	3.12	8.1 から 25.9	低
Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized heavy	-	10 から 2500	高
Solvent naphtha (petroleum), light arom.	-	10 から 2500	高
zinc oxide	-	28960	高

土壌中の移動性 : データなし




オゾン層への有害性 : 該当しない

他の有害影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。容器は、穴を開けたり、焼却したりしてはならない。

14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
国連番号	UN1950	UN1950	UN1950
品名	AEROSOLS	AEROSOLS	Aerosols, flammable
国連分類 クラス	2.1 	2.1 	2.1 
容器等級	-	-	-
環境有害性	該当せず。	該当せず。	該当せず。

追加情報

UN : 特別条項 63, 190, 277, 327, 344, 381

IMDG : 緊急時スケジュール F-D, S-U
特別条項 63, 190, 277, 327, 344, 381, 959

IATA : 数量制限 旅客および貨物輸送機: 75 kg。梱包に関する指示: 203。貨物専用輸送機: 150 kg。梱包に関する指示: 203。数量制限 - 旅客機: 30 kg。梱包に関する指示: Y203。
特別条項 A145, A167, A802

使用者のための特別な予防措置 : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

IMO機器によるばら積み運搬 : データなし

15. 適用法令

消防法

カテゴリ	物質名／種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
第四類	以下を含む物質：第一石油類 以下を含む物質：第二石油類	II III	火気厳禁 火気厳禁	200 L 1000 L

安衛法

特定化学物質障害予防規則

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
エチルベンゼン	<10	管理第二類 物質	3-3

名称等を表示すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
ブタン	≥10 - ≤25	該当	482
石油ナフサ	≥10 - ≤25	該当	330
エチルベンゼン	<10	該当	70
酢酸ブチル	≤10	該当	181
キシレン	≤10	該当	136

名称等を通知すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
ブタン	≥10 - ≤25	該当	482
石油ナフサ	≥10 - ≤25	該当	330
エチルベンゼン	<10	該当	70
酢酸ブチル	≤10	該当	181
キシレン	≤10	該当	136
酸化亜鉛	≤0.59	該当	188

化学物質による健康障害防止指針(がん原性指針)

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
エチルベンゼン	<10	該当	-

有機溶剤中毒予防規則 : 第2種

化学物質審査規制法

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
エチルベンゼン	<10	優先評価化学物質	50
キシレン	<10	優先評価化学物質	125

毒物及び劇物取締法

記載された成分なし。

化学物質排出把握管理促進法

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
エチルベンゼン	5.5	第一種	53
キシレン	5.5	第一種	80

日本産業衛生学会 発がん性物質 : 2B類

16. その他の情報

履歴

印刷日 : 30.09.2021
 発行日/改訂版の日付 : 16.09.2021
 前作成日 : 05.06.2020
 バージョン : 1.01

略語の解説

: ATE = 急性毒性推定値
 BCF = 生物濃縮係数
 GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム
 IATA = 国際航空輸送協会
 IBC = 中型運搬容器
 IMDG = 国際海上危険物
 LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数
 MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書。("Marpol" = 海洋汚染)
 N/A = データなし
 SGG = 隔離グループ
 UN = 国際連合

分類を行うために使用する手順

分類	由来
<input checked="" type="checkbox"/> アゾール - 区分1 特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分2 水生環境有害性 短期(急性) - 区分3 水生環境有害性 長期(慢性) - 区分3	試験データに基づく 算出方法 算出方法 算出方法

参照 : データなし

前バージョンから変更された情報を指摘する。

注意事項

我々の知る限りにおいて、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその子会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任も負うものではありません。製品の適合性については、ご使用各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。